特252
164

昭和十五年十月

# 燃料問題の重要性

九月四日坂本會長放送要旨

燃料國策研究會

始

特252
164

# 燃料問題の重要性

海軍中將男爵　坂本俊篤

海を制するものは天下を制す、と云はれた時代は既に過ぎ去つて、今では海を制すると同時に併せて空をも制せねばならぬと云ふ時代に變つて參つたのであります。

曾つては大奈波翁をして英海峽に臨める「ブーローニュ」の岸頭に立つて、吾をして六時間此の海峽を制する由もがなと思案投首をさせた一衣帶水も、今や獨の集結せんとする空軍や快速艇や潛水艦や陸兵を滿載せる運送船が、わつと云ふ間に此の海峽を制壓し、世界無比を誇る英國海軍を尻目に「とつと」雄鳴いて此の海峽を突破するかも知れぬと、世界注目の的となつて居るではありませんか。

英國人が酒三杯氣滿ち眉昂る時、肩を聳かし瑠璃の杯を高々と差上げて、彼の誇りに滿ちた高聲で、ブリタニヤは世界の波濤を制す、と謠つた時代は過ぎ去つて、近頃では英國の守りは「ライン」に在りと悲鳴を上げたことも束の間で、今や本土の守りさへ瀕死の境に沈淪せんとしつある有樣であります。

古人の金言に、「備あれば憂なし」と云ふ名句がありますが、今日獨對英佛の勝敗の跡を見ましても、

此の金言がひし〳〵と我を欺かずと感ぜしめるものがあります。

諸君、考へて見て下さい。第一次歐洲否世界大戰で、獨の破れたのは、彼は思想戰と物資戰の備へを怠つた故でありまして、彼は尺寸の領土さへ侵略されなかつたことに見ても或批評家の如きは彼は戰場に勝つて戰役に破れたと皮肉な批評さへ浴びせかけて居る位でありますが、兎に角彼は「ヴエルサイユ」條約の前には殆んど無條件降服にも似たる嚴酷なる條件に屈服せざるを得なく余義なくされた彼ナチス獨は、臥薪嘗膽遺恨二十有余年一劍を磨きつゝあつた獨側に反して、英佛側はあの位やつツけておいたから、當分枕を高くすることが出來ると油斷した結果が、その因果を產んだのであるからたまらない。換言すれば備へあるものと備へなきものがかち合つたのであるから、その結果は知るべきであります。

ちと前提に道草を食ひ過ぎたかと思ひますが、此教訓は後に申上ます本題と思合はせらるる節があらうと思ひまして御辛抱を願つた次第であります。

さて此の世界的時局の變轉に處して、我日本丸の船長は其の柄柄を如何に取るべきかと申しますのに、これは海の術語とでも申して良いかと思ひますが、船長が面舵と號令すれば船の首は右の方に曲り、取舵號令すれば船の首は左の方に廻ります。又宜候と號令しますれば船首は左右身動きもせず其儘じつと眞直に一定の方向に直進するのであります。

此の船の運命を一身に背負つて立つ船長の號令こそ烈風怒濤を捲く間も彈丸雨注の間にも、周章てず騷がず、靜かに然も嚴肅に響渡つて神秘的に船員の人々の心琴に觸れねば歇ぬ底のものであります。日本海の大海戰に東郷元帥の三笠の艦橋より下せる面舵・取舵・宜候の號令は今でもじつと目を瞑れば我々の耳底にはそれが響渡る心地して、坐ろに肉の躍るを禁ずる能はざるものがあります。

然らば此の際我日本丸の舵は如何に取るべきかと申しますれば、それは面舵でもなければ取舵でもありません。すべからく宜候でなくてはならぬと思ひます。然らば其の宜候の針路とは何にを意味するかと申せば、前に申した「備へをれば憂なし」との金言、否針路の一點張りでなくてはならぬと思ひます。これは近頃ちらほら受見けまする所謂國防國家體制とその意義の相通ずるものがあるではないかと思ふのであります。

一寸御斷りして置きますが、國防一點張りと申しても、何にも陸海軍さへ強ければ其れで宜いと云ふのではありませぬ。

近代戰爭のやり方にも段々移り變りがありまして、以前は國の勝敗は互に軍人同士の戰で型が付いた樣でありますが、近代の戰爭となりますと所謂國力戰でありまして、勿論陸海軍は其の勝敗を決する主要なる一環ではありますが全部ではありませぬ。其の他外交環、經濟環、交通環・通信環・其他戰爭遂行に必要なる物資環等、各相依り相助け合つて、一國の國防鏈を作るものでありますが、此の中一環でも著しい脆弱環があつたなら、國防は此の脆弱環を破斷點としてぷつつりと切れて仕舞ふ虞れがあるのであります。のみならず他の强度分の環まで其の用をなさしめぬことになりますから、此

等の諸環は皆相當の强度を持合つてゐることが統合的に必要であります。泰西の諺に「一鏈の鎖は之を連結する處の最弱環の强度に過ぎず」とは之を言表はしたもので大に味ふべきものがあると思ひます。

私は只今此等の諸環の一々に就て解説を試みるの時間を有せぬことを遺憾に思ひますが其の一二を拾つて申しますれば、先づ外交環は今次歐洲大戰に際して外交戰は常に劍戟戰と平行しつゝありと言つても良い位で、獨逸が開戰一番ソ聯と不戰條約を結んで、我國に向つて肱鐵を喰はせた如き、彼が防共の主盟國であつた丈けに、皮肉と云はうか辛辣と申さふか、手段の前には義理もへちまもわきまへないと申されても言ひ譯はなからうと思ひます。知らず道がのヒ總統もその良心の前に深夜人定つた後彼の夢は穩かなるを得るであらうかどうか。其他最近獨伊對バルカン外交・英對ソ聯及アメリカ外交等頻繁なる外交戰がそれであります。又經濟戰に至りましては昔から戰爭には一にも金二にも金と云はれ、戰爭には金がつきものである。その昔武士達はとかく金錢はこれを賤む風を見せたものでありましたが、其の具足櫃の底にはそつと軍用金を忍ばせて置いたものであります。又舊大名諸侯方の調度の中には金の茶釜や金の碁盤などがあつて、實用向には余り感服出來ぬものであるが、いざ鎌倉と云ふ時の用に充つる用心とこそ受取られた。又あの伯林に程近きスパンダウと云ふ處の有名なる塔の下には往年（一八七〇）普佛戰爭の際にフランスから分捕つた償金の一部がうんとしまつて在ると云ふことは百科全書あたりにも出てゐる位有名なるものであるが、恐らく今日迄には費ひ果して今



では空々であらうと思ふが、何れ今次の戰爭の終りにはうんと英佛其の他から取上げて、再びスパンダウの塔の曲る程積込むかも知れない。

其他我が政府としても金の買上げ公債の募集等有ると凡ゆる手段を講じて此の聖戰完遂の道を講ずべきは勿論、國民も亦一億一心懸命となつて政府の爲す所に向つて協力を吝まぬ覺悟が肝要であります。其他最後に戰爭に最も必要なる物資環中特に諸君の眞劍なる御注意を願ひ度いものが一つあります。

それは外でも無い液體燃料のことであります。而してこれは凡ての戰爭の用具即ち軍器活動の力素をなすものでありますから、之れ無ければ凡ての軍器は死物も同然であると申しても過言でありませぬ。されば私は議會あたりでもさう申しました。液體燃科を目して軍需品中の主要なるものであるなどと云ふのは未だ未だ認識不足である。燃料は軍器と同一視すべき程の重要性を有するものである。强いて名付けろと云ふなら液體軍器とも稱すべきであつて、此の軍器は凡ての軍器に先行して準備されねばならぬ。如何となれば此の液體軍器を缺くに於ては幾百萬噸の軍艦幾千萬臺の飛行機、タンク・トラック・自動車ありとも究極無用の長物兒童の玩具たるに終らんことを恐るるからであります。

論より證據今次の歐洲大戰に於て獨があの電擊的作戰を以て大陸を席捲し、今や大英國の死命を制せんとしつつあるのも、皆此の燃料を活動力とする所の所謂機械化部隊竝に空軍の効果に依るものでありまして、今日の戰爭は一にもガソリン、二にも石油、即ち之を有するものは勝ち、之を有せざる

ものは敗る。勝敗の數は戰はずして先づ知ることが出來ると云ふことであります。

私の平生「モットー」とする「燃料無ければ國防なし」とはこれであります。

然り液體燃料が戰爭を支配することは判つたが然らばそれが我が國防と產業の上から見てその需給關係が如何なつて居るかと問はるれば、それが頗る困つた一大關心事の問題であると答へざるを得ないのであります。

私は斯る問に對しては成る可く樂觀的な、諸君に御心配を懸けぬ樣にしたいと思ひますが、又一面から考へると、斯る重大問題は成る可く其の眞相を諸君に知らしめ、諸君に訴へて諸君と共に此の問題の解決に努めたいと思つて居ります。若し然らずして誤つて諸君をして空虛なる安心の上に眠らしむる樣なことがあつては國家に對して申譯けの無いことになることを恐るるものでありまして、此の點に關しては私は平生政府當局あたりに對しても、斯樣な心掛を以て國民に臨まれ度いと云ふ意志を洩らしたことが度々ありました。

さて其の實相如何に就きましては事の陸海軍に關しましては彼是申述べるの自由を有せず、惟ふに彼等は其責任に於て相當の準備のあるべきは勿論のことでありますから吾人はそれに信賴して何等問題に觸れることを愼み度いと思ひます。然して一般國民に對する燃料特に液體燃料の需給關係は頗る悲觀すべき狀態に在ることは既に公知即ち世間一般に知れ渡つてゐる事柄でありまして、その國內年產額は需用の一割を滿たすに足らずと云ふ有樣でありましてその殘りの九割餘と云ふものは之を國外



の輸入に依存しつゝありと云ふ現狀であります。能く言はれる如く石油の一滴は血の一滴とするならば我が國は國外から九割からの輸血に依つてひくひく生きて居るも同然と云はねばなりません。こんな馬鹿げたことは平時に於てさへ我慢が出來ず況んや此の戰時體制に於て國家の興廢を目睫に控へながら斯樣な狀態に放任して一日も安閑たるを得るか否かは之を常識に訴へても直ぐ判る問題ではありませんか。

（以下放送割愛）

斯く申したならば或は說を成す者は言ふかも知れぬ。だから石油業法もあれば官民合同から成る人造石油の帝國燃料興業株式會社もあつてせつせつと其業に精勵して居る。又石油資源開發法の發布もあれば近くは帝國石油資源開發株式會社も最近開業の運びになつたではないか。其の他日滿支ブロックの下に各種會社が種々の方式を以て各所から人造石油を供給するの運びとなつてゐる等々、一應之を聞けば言葉の上からは何やら鹿爪らしく聞えますが、偖てそれが數字となつて需給關係の上に如何に響いて來るか、換言すれば之に依つて何時になつたら國外依存から脫することが出來るか、今日では殆んど望洋の嘆なき能はざると同時に、一般國民は前に述べ來つた重大なる關心から解放されることが却々出來ぬと云ふ有樣にあるのであります。

（以上放送割愛）

然らば此の窮狀から脫するには如何にすれば良いかと言ふことは必然的に起るべき問題であるが、

簡單に御答へすれば此の場合左の三手段より出でぬと思はれます。即ち

其一　國内石油資源の開發

其二　人造石油事業の促進

其三　海外石油資源の獲得

であります。

以上三點に就て一々解說を試みたいと思ひますが、何分時間が許しませぬから此處に一言申せば從來仕事の遣り口の不振若しくは失敗は其の熱意に於て足らざるもののあつたことに坐せるものに外ならぬと思ひますから此の點に就て將來は官民一致火の玉の如き熱意と迅速さを以て事に當らんことを希望すると云ふことに止めて置きます。

（以下時間不足の爲割愛）

或る論者中には斯く說く者がある。成る程燃料問題は國家にとりて刻下の重要問題であるに相違ない。然し今直ぐにも之が解決を計らんとしても適當な人間も無ければ資材も無いと難癖にも似たる言を弄するものがあるが、それは此の時局を前にして餘りにも氣の弱い申し分で此の國家非常時の前には通らぬ申分であると同時に許すべからざる申分であり、將又國家の熱烈なる要求の前には消滅すべき申分と云はねばなりませぬ。況んや國家としては已に其の運營に要する國家總動員法等の具備せるものあり、その經費の如きに至つては國家興廢の前には言ふに足らぬ問題であると云はねばなりませ



ぬ。

序でに一言斷つておきますが、前に使つた言葉の中に今直ぐにと云ふ言葉がありましたが今直ぐにと云つても今日着手して明日にもと言ふ意味ではありませぬ。其の出量、並に計畫の程度如何に依つては二年乃至三年かゝつても致方がない。要は人事のあらん限りを盡して迅速に且つ積極的にやれと云ふことを指すのでありまして、此の時局切迫の場合には時間即ち「タイム」と云ふものが大なる「ファクトル」となることを思はねばならぬからであります。

諸君、非常時には非常時の計なかる可からず。私は此の國家非常時に際し、國家の熱烈なる要求の前には何事か成らざるのもなきを確信して疑はざるものであります。幸に此の國防國家體制の下に、一億一心國民總親和、總努力に依つて此の希望を達成し、以て國家を泰山の安きにおかんことを熱望して已まざるものであります。（了）

402
215

昭和十五年九月三十日 印刷
昭和十五年十月五日 發行

〔非賣品〕

東京市麴町區丸ノ内三ノ四有樂館
編纂 燃料國策研究會

東京市麴町區富士見町一ノ七ノ九
發行者 工藤保藏

東京市麴町區丸ノ内三ノ四有樂館
發行所 燃料國策研究會

東京市京橋區銀座西一丁目七番地
印刷所 福神製本印刷所

終